



「まちへの好奇心から生まれた私の夢」

私は幼いころから、家族が語ってくれる”昔の鳴門市の街並み”が大好きでした。街中に立ち並ぶ個人商店に、顔なじみのご近所さんたち。小学校までの道のりには、駄菓子屋さんや文具屋さんなど寄り道したくなるお店がたくさんあったといえます。当時、鳴門市で商店を営んでいた祖母から聴く昔話は何度聞いても飽きることもなく、昔の写真を見たときには、まるで映画「三丁目の夕日」の世界に入り込んだようで、私もその時代を生きてみたかったと強く思ったことを覚えていきます。

本格的にまちに興味を持ったのは中学生の頃です。ある日の散歩中、かつて商店を営んでいた大きな御屋敷が取り壊されていることを知り、また一つ街並みが変わっていくことに寂しさを感じました。なぜまちは変化していくのか。その理





由を知りたいと思った私は、社会科自由研究のテーマに「鳴門市のまちの変化」を選びました。自分で調べを進めると同時に、建設コンサルタントとしてまちづくりの仕事をしている父から、鳴門市の歴史やまちの成り立ちについて教わりました。その過程で、まちはただ変化してきたのではなく、そこで暮らす人々がその時代に合ったまちの在り方を選び取ってきたのだと気づきました。そして、これからのまちを創るのは私たち自身だと感じ、父のように技術者としてまちに携わりたいと思うようになりました。

そんな思いから、阿南工業高等専門学校建設コースへ進学し、現在は最高学年として「地方商店街の再生」をテーマに卒業研究に取り組んでいます。この五年間を通して、建築コンペティションや事前復興プロジェクトなど、まちを多面的に捉える活動に積極的に参加してきました。特に高専三年次では、鳴門市の大道銀天街を対象に新しい

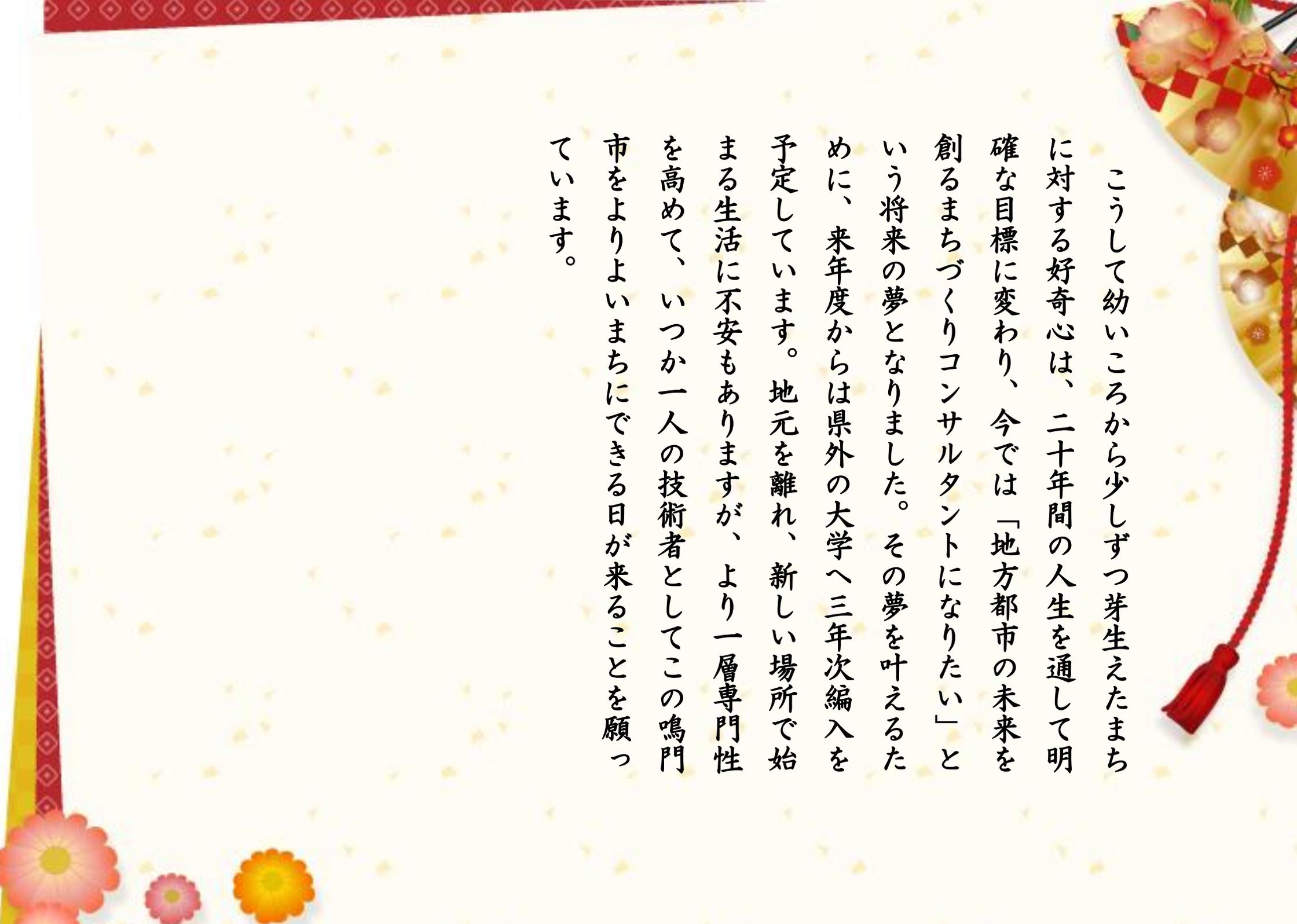




商店街の在り方を提案し、鳴門市長や大道銀天街組合の皆様、他大学の教授や学生に向けて発表する機会をいただきました。当時の私が提案した作品は、今振り返ればかなり非現実的で大胆なものでしたが、一学生の意見にも真剣に耳を傾けてくださり、多くの助言をいただいたことに深く感謝しています。

そのご縁から、大道銀天街が開催するまちづくりワークショップや地域イベントに定期的に参加させていただくようになり、鳴門市にはまちをよくしようとする人々が多くいることや、イベントを心待ちにしている子供たちの姿を知りました。「鳴門駅から商店街までの導線をよくしたい」「老若男女問わず多くの人が集まりやすい商店街にしたい」など、やる気に満ち溢れた表情でまちへの期待を語る商店主の方々を見るたびに、私はこういったまちの人の声を聴き、一緒に実現していく仕事がしたいと強く思います。





こうして幼いころから少しずつ芽生えたまち
に対する好奇心は、二十年間の人生を通して明
確な目標に変わり、今では「地方都市の未来を
創るまちづくりコンサルタントになりたい」と
いう将来の夢となりました。その夢を叶えるた
めに、来年度からは県外の大学へ三年次編入を
予定しています。地元を離れ、新しい場所で始
まる生活に不安もありますが、より一層専門性
を高めて、いつか一人の技術者としてこの鳴門
市をよりよいまちにできる日が来ることを願っ
ています。